

『新型コロナワクチン～子ども（12歳以上）は接種した方が良く？妊婦は？』



しもじ内科クリニック院長
下地 栄壮



高齢者への新型コロナワクチン接種が進み、12歳以上の申し込み受付も開始になりました。最近良く“子どもや孫は新型コロナワクチンを接種した方が良いですか？”“妊娠していても大丈夫？”と質問されます。この質問に対する、日本小児科学会と日本産婦人科学会の見解の要旨をご紹介します。

《日本小児科学会》

子どもへの新型コロナワクチンの有効性や安全性に関する海外からの情報によると、他の接種年齢群と同様の高い予防効果が期待でき、ワクチン接種は子どもにおいても日常生活を取り戻すための重要な対策の一つとなり得ます。一方で、ワクチン接種後の発熱、倦怠感、頭痛、悪寒、接種部位の疼痛などの副反応の多くは数日で自然軽快することが分かっています。また、心筋炎などのまれに起こりうる疾患も比較的軽症であることが多く、実際に新型コロナウイルスに罹患した場合のデメリットよりもワクチンを接種するメリットが上回ると考えられています。現時点（2021年7月14日）で日本小児科学会としては12歳以上の健康な子どもへの接種は意義があると考えます。

副反応に関しては、日常生活に支障をきたす程の発熱、疼痛、倦怠感が生じた場合、接種を行ってから1週間以内に胸痛、息切れ、動悸などを認めた場合、

2～3日を超えてだるさなどが続く場合、その他気になる症状が出現した場合は、接種した医療機関、かかりつけの医療機関、もしくは接種された地域でワクチン接種後の症状への相談窓口にご相談下さい。

《日本産婦人科学会》

すでに多くの妊婦が接種している海外の情報では、ワクチンは妊娠初期を含めて妊婦とおなかの赤ちゃんの双方を守るとされ、母親や赤ちゃんに重篤な合併症が起きた報告もありません。したがって、日本でも希望する妊婦はワクチンを接種することができます。妊娠中に新型コロナウイルスに感染すると特に妊娠後期の感染ではわずかに重症化しやすいとされ、一般にワクチンを接種することのメリットがデメリットを上回ると考えられるため、特に感染の多い地域の人や感染リスクの高い医療従事者、糖尿病、高血圧、気管支ぜんそくなどの基礎疾患がある人は、ぜひ接種を検討して下さい。

副反応については妊婦と一般の人に差はなく、発熱した場合は早めに解熱剤を服用して下さい。アセトアミノフェンは頭痛がある場合でも服用して問題はありません。

また、授乳中の女性の摂取については、ワクチン接種で母乳を飲んだ赤ちゃんに影響が出る可能性は非常に低いと考えられます。

以上のように、両学会共に接種が出来ない理由がある場合を除き、ワクチン接種は問題ないとの見解です。また、特に子どもに関しては周りの環境に影響を受けやすいため、個別接種が勧められています。



【お知らせ】

8月13日（金）～15日（日）はお盆休みとなります。大変ご迷惑をお掛けしますが、宜しくお願いいたします。



しもじ内科クリニック(nico nico studio)

東区三苦3丁目2-49(福岡銀行美和台支店隣り)
TEL: 092-605-6300